

神奈川県演劇連盟機関誌

ドラマ神奈川

第16号

1998年10月25日発行【神奈川県演劇連盟】

●横浜市中区福富町西通り52 ☎045-261-4866

神奈川の演劇人たち
今がチャンスだ。
燃えてみようぜ
2000年に向って！



2000年は貴方にとっても私にとっても大きなイベントの年になる筈です。そんな中で、神奈川県演劇連盟は40周年記念事業として、合同公演と言う大きな旗を掲げました。

チャンスは一度だけです。両手で掴み燃えつきてみませんか。きっと貴方の心の中の勲章となるでしょう。

劇団内外を問わず、沢山の意見交換をしてみてください。

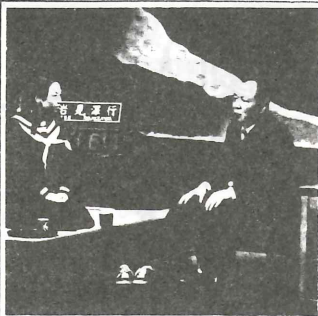
Go for it. これからの合言葉です。

県演劇連盟40周年記念合同公演については本年度第1回の理事会から熱中した議論が展開されている処ですが今回はそれらの中の何点かについてせまってみよう。さて本年度の活動方針が総会の席で承認をされましたが記念合同公演(合同公演)についてはその(6)県演劇連盟40周年記念事業として記念誌の発行、レセプション、合同公演の3事業を実現する基盤をつくるとしている。特に合同公演については上演台本、制作者、演出者の決定を具体的には行なっていくとなっている。本年度行なわれた過去3回の理事会においては制作候補である山本忠利氏(京浜協同劇団)のいくつかの具体的な提案をもとに各理事が意見をのべる形で進められている(御本人は何も資料がないと困るという事で単に叩き台をと思っていた)理事会における議論や加盟劇団よりの意見については第3回理事会で配布された「県演劇連盟理事会議論に見る40周年記念合同公演の問題点」の資料に整理されているがその中のいくつかを御紹介しながら又、過去3回の理事会における意見、提案を参考に皆さんと一緒に合同公演実現に目を向けてみたいと思います。第一は記念合同公演については2000年の秋頃が予定されているわけですが合同公演を行う意味、位置づけの点で実際いざ自分達がやるとなると各劇団の受け止め方かなりの差異があることがわかったと述べています。又、各劇団はそれぞれが負の部分少なくし、やる以上は積極的な取組みを、そして全体の課題を全体で成功させる位置付けができるように、連盟でも各劇団単位でもしっかりとした話し合いと語が必要であるとしている。合同公演をやるにあたってはいくつかの困難が伴う事も考えられるが、困難からにげるのではなく多くの得るものがあるという前向きな考え方をしてはどうかと提案している。今回の合同公演の規模は数百万円~〇〇〇万円の予算であり、その内切符収入は数千数百枚で数百万円、その他はいくつかの補助金数百万が収入予定とされている(討議中)。いづれにしても数字だけで見るととても大きくて、本当にやっているの?ここまでやんなくても?分担金は?ノルマは?といういろいろな事が脳裏をかすめていくの

は皆さんの頭の中も同じだと思います。本当に得るものがないとやらぬ方がよいという考えになってしまいます。又、こういう事はあまりむつかしく考えすぎても進まないんじゃないかと言う意見もあり、イベントとしての考えを前面に劇団によって参加の程度が違っていいし、ゆるやかな連帯が実現すれば良いのではという現実的な考えも聞かれている。とにかく資料を良く読んで、理事にまかせられるのでなく劇団員一人、一人が積極的に前向きにかつ楽しみながらあまりむつかしく考えずに取り組んで見る事が必要なのではないのでしょうか。山本忠利氏も言っているように「総論で賛成できれば各論では何とか出来る、という言葉信じてやってみてはどうでしょうか。

第二は加盟劇団の考えの中に自主公演をまず第一に考えるとなると合同公演まで手がまわらない、劇団を自主公演グループと合同公演グループにわけるといかにないという意見もあり、もう少し話が煮詰ってこないと参加できるかどうかかわからない、秋は無理だから春にしてはという劇団もある。現実路線を引く中では当然すぎる意見でもあり、それが殆んどどの劇団の現状であろう。それについては公演の時期は再来年の事なので各劇団の日程調整は可能なのではないかと(稽古期間は4ヶ月程度を考えている)。自分の処の公演と考え、秋はこれ一本で行くと考えるようにしてはという提案があった。ある劇団ではアンケート調査を行ないそれを理事会に提出している劇団もあった。問題点は他にもチケットの分担制、ノルマ制、拠出金、演出者等々にあるがそれらの疑問、質問に資料は答えている、是非読んで頂きたい。

さて最後になりましたがこれからは議論を煮詰めて行く事も必要だが提案を加盟劇団に対して具体的に行ない、賛否を問うようにしてはどうだろうか、加盟劇団はそれを望んでいると推察する。理事会での決断をお願いしたい。



京浜協同劇団

『鉄道員』

ぼっぼや

6/13(木)~21(日)

スペース京浜

7/1(木)~5(日)

相鉄本多劇場

若い時から鉄道一筋で何十年、妻・子どもに先立たれ、孤独の生活の中で今は定年を間近に迎えようとしている駅長。そこへ、乳児の時亡くした子が成長した娘の姿で現われ、父に、家庭を省みることの出来なかつたことを恨んではないよ、それよりもっと仕事の話をしてよと、幻想であったかもしれないが親子のふれ合い、父は蓄年の苦悩から解放され、安らぎとともにその人生の幕を閉じた。

北海道・さいはて・廃止路線、とくればその哀感度はイヤガウ工にも高まり、感動の涙を流した人も多かつたのではなからうか。

他人には見えてはならない苦の子供が抱えて来た人形、成長した娘の後姿など作劇的には気になるころではあつたが。

それとある人から、それは劇団の個性だよと云われたが、ところどころいわゆる「クサイ演技」が見られたのが、劇的效果はあつたのかもしれないが、私としては受け入れられなかつた。

(劇団かに座 田辺晴通)



横浜小劇場

『山の動く日』

6/20(土)~21(日)

関内小ホール

まず初めに感じたことは、舞台セットがシンプルな割にはとてもよく整っていて、見心地の良い空間であつたということだ。芝居の世界というものは、どうしたって一定の空間の中でのストーリーの展開となるのだから、舞台美術がどのような空間を作り上げるのかによっておおよその価値観が位置づけられてしまう。客は、タイトルと舞台セットによって示されている意味を自己解釈し、起こり得るであろう物語の展開に期待と不安を抱くのである。

さて、今回のタイトル「山の動く日」は、いわゆる女性の自立を扱った作品である。それにしても、この様な作品に、近年、あまり心打たれるものがなくなつたのはなぜであろうか？女性にとって、本当の幸せとは何か？本当の強さとは何なのか？豊かさは本当に女性を幸せにしたのだろうか？と、劇中「まさ」の姿を見ながら喚起された、現代女性と比べ合わせ考えさせられてしまった。

(劇団 河童座T.)

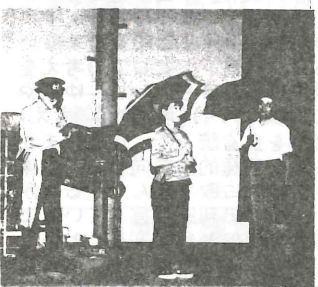


劇団 横濱 にゆうくりあ

『伊勢佐木町 ブルース』

6/27(土)~28(日)

相鉄本多劇場



劇団かに座

『風の中の街』

6/27(土)~28(日)

教育文化ホール

淡々と繰り返される台詞遊びは、発音のしっかりとした役者の揃う、かに座にあっていて、比較的好き嫌いのはっきりするであろう別役作品特有のくどさがなくシンプルで見やすい舞台になった。ただ、方言や小道具などに統一感がなく、流れ者の一家とその土地の人々との対比がくっきりとしなかつた。そのためか集団と個人の境界線の微妙な変化や、常織があっさり覆される面白さが存分に堪能できず、観る側も今一步のところで乗り切れない。芝居運びが単調なのは面白さでもあるのだが、一つずつ膨らんでいく問題〈ドラマ〉が積み重なっていかず、当たり屋家族一人一人の心の中が見えてくる台詞は、やや説得力に欠け、ラストへと続く大きなうねりとならなかつたのが残念。初江役の船越園子さんのストレートな演技が出色だった。

(劇団川崎演劇塾)

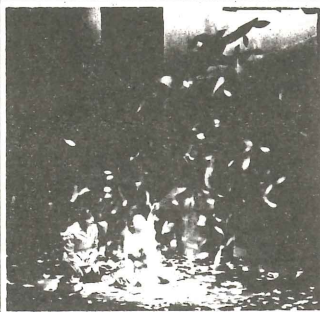
今や忘れられた「伊勢佐木町ブルース」に、遠い昔の靴磨きや花売りに母探しを重ね、さらにそれを映像化するという、虚に虚を重ねてストーリーが展開する。

見ているうちに、映像のシーンなのか虚の中の実だったのか、その見分けがつかなくなつた。時代を重ね合わせ、渾然とした中から喪失したものを浮かび上げさせようとしたのかもしれないが、母と子、若者の純愛などエピソードのコラージュが絡み合つたまま、観劇後も解けてこない。それが目的であつて、エピソードを網羅することで、片面的な印象を避けようとしたのかもしれないが、台本の刈り込みも必要である。

だが、どこの劇団にもいない個性的な怪優(失礼！)たちが、芝居を膨らませている。見ているだけで、いいなあーとうらやましくなる。テンポも小気味のいい。

この劇団の横浜をテーマにしつづけるパワーにはいつも敬服する。このオリジナリティは、どこの誰にもどの劇団にもまねできない。なにより、このまま走りつづけて欲しいという思いが、一番強かつた。

(劇団蒼生樹 浜田重行)



劇団葡萄座

『恋愛日記』

7/4(土)~5(日)
スペースオルタ

この作品の大筋は、少女趣味のタイトルとは裏腹な一人の男性をめぐる姉妹のどろどろとした愛憎劇のほずでした。しかし当の本人どうしは実にあっさりとして演じていて、それが演出なのか役者のキャラクターなのかはわかりませんが、二人をとりまく周囲のほうに熱く、滑稽であり(すき焼き男さいいですねー。一番年配なのはこの人が一番元気!)正直言つて、この二人、もう少し内面の苦しみを流れる台詞のあいまいまに出してくれないがしら……とも思いました。(ボクシングのシーンとか……)

しかしそのさらつとさがなんか妙にリアルで、二人姉妹の妹である私は、だんだんと感情移入させられてしまいました。特にラストの、姉のひざ枕で眠る妹、静かに降りかかる紙吹雪……には不覚にも目がウルウル……。一つのシーンの間に、ムードを盛り上げるBGMも役者を引き立たせる照明の切り替えも一切使わず、ただ役者の力だけで話を引っ張っていかうとする姿勢も好感が持て、それに頼りがちな我が劇団としては頭の下がる思いでした。

(劇団 横浜にゆうくりあ 斉藤礼子)



劇 ★ 派

『異国の咲く花』

7/5(日)
野毛山フラスコ

チラシに「人間性回復がテーマ。12人の美女が太股露わに組んずほぐれずの一大バトルロイヤル」とあったので、私も人間性を回復すべくカブリツキで観たいと思った。しかし、開演10分前にやっと建物の中へ入れてくれたのだが、会場の2階へ上がるのは暫く待てとのこと。やがて1階の楽屋から転形劇場のようなスローな歩みで一人又一人と2階へ向かう。これがプロローグ。暫くしてお許しが出たので役者の列を追い越して目指すカブリツキへ。毎回祭山さんの高い感性から生み出される劇的なものは、元々低く、且つ老化して鈍くなっている私の感性では受け止めかねていた。今回は開き直って、高邁なパフォーマンスにひたすら太股を通して下劣に対峙した。第1部は「事実の重さ」を背景にしたお芝居と演奏。第2部はナイヤビンギの演奏に導かれて、演者達は基本的なリズムに乗る。第3部は即興から創り上げた、「舞台」「椅子とアリス」「林檎を食べる」「加害者、被害者」「ある悲惨」「異国の一団」「扉に関するエピソード」という七つの物語を見せて終わる。素朴な感想は「ワークショップを演奏付きでみせてもらった」と言う思いだった。

(横浜演劇研究所 飯田克衛)



劇団麦の会

『Come Blow Your Horn』

7/25(土)~26(日)
関内小ホール

五十年の歴史に終止符を打って、三十年ぶりに翻訳劇に挑戦するという劇団を観に行った。ニールサイモンという、わりとハイソで少々厄介さを孕んでいる作家と取り組んでいたのは、老若男女いい具合で調合されたキャストとスタッフであった。こういった芝居は金無い力無い(失礼)僕達のようなアマチュアがやるのは非常に難しいと思う。案の定舞台装置も安普請だし、役者のせりふも未消化であった。しかし!僕は面白かった。もちろん作家の力によるものも大きいだろうが、随所に「いいじゃねえか翻訳劇やったって」といういい意味での開き直りを見たからである。いいじゃねえか、オンオフブロードウェイ、ミュージカル、歌舞伎、狂言、オペラにアングラ芝居。畏れていてどないすんねん。最後にもう一盛り上がり欲しかったという苦言だけ呈して心から拍手。険の青さと動き方がサンダーバードみたいで大変装だったけど、雄大氏に「どうってことねえじゃん」とか突っ込まれそうだ。

(京浜協同劇団 ミズノタクジ)

劇団河童座

『ドリトル先生
快獣としゃべる』

8/7(金)~9(日)
相鉄本多劇場

劇団河童座のファミリーシアターを家族で拝見した。今年で6年目を迎えたとあってお客様にもかなり浸透している様子。「大人も子供も一緒になって楽しめる芝居」という主旨はおおいに共感するところ。芝居の造りをどのあたりにあわせて仕上げるか……非常に難しく又迷う点だと思えます。この舞台では対象をハッキリと低年齢に定めていた為、とても好感の持てる爽やかな舞台となった。内容も、ドリトル先生と動物たちの冒険をとおして、生き物の事や自然の事へと子供と対話するのに充分な発展性のある内容であった。

開演前に妖精が案内役となって客席の子供たちといっしょにそれぞれ動物役の役者をスカーフで色分けしていく導入部……なかなか考えた「つかみ方」でした。(ただアメを配るのはどんなものか……)開演後も随所に楽しい工夫がみえていたが、ひとつ気になったのは、沢山の動物が常時出ているので区別がつきにくい点だ。役者の動きとスカーフの色の違いで見せるアイデアはなかなかのものだが、もうひとつ何か工夫が欲しかったように思う。動物たちの集団での動きがピタリとはまっていただけに、それぞれの個性が今一つハッキリしなかったのが惜まれる。役者は皆さん達者だ。とにかく楽しんで舞台にたっている様子が……心に気持ちいい。

土曜の昼間、ほぼ満席となっていたが、子供の姿が以外と少なかったのが気になった。

(劇団葡萄座 山本)

それでもやりたい!

— せっかくな「やすみ」も — 一杯やりたい 夜も 稽古

仲間達... なんぞさぼるやるの? みんなギモンに 各處り

雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ、稽古時向ノ不足ニモ負ケズ、集マリの悪サニモ負ケズ、稽古場ノ暑サニモ負ケズ、丈夫ナ体ヲ持チ、名声欲ハナク、演出ニ逆ラケズ、イツモ静カニ笑ッ、テイル アラコトニ類ヲダシ、ヨク見物キシワカリ、台詞「志」レス、ミニナニハタクソト呼バレ、ホメラレモセズ、バトウサレ、ソレデモアキラメズ、ヨイ芝居ヲ目指シツツケル

サファイアモノニウタシハナリタイ

横浜小劇場 ヤマクナ

にやうくりあのメンバーは
毎週 フラスコに向かう為
汗をかきかき 野毛坂を登っている

たまに稽古場がかわても
やっぱり紅葉坂を登っている



にやうくりあのメンバーは
稽古場に行くだけで
シェイプアップができる
だからにやうくりあのメンバーは
みんなこ〜んなにスリム。
な、涉さん!

劇団横濱にやうくりあ

突然この原稿を頼まれてしまって、
どうしようと困っている、河童座歴2年
になる22歳の女のゴウ(?)です。
私は別に、アマヒかプロヒか考えて
まねるので...。アマチュア演劇、
ですか? うん。私はただ、好き
だから芝居をやってる、河童座が
好きだから河童座にいる。
好きだから頑張れる、ただそれだけ。

劇団河童座

ラ、テラは 現在活動休止中です。過去8年間を
ふりかえってみると、いつか観劇していた心と心とがまた
これ創作シニシカル作劇にむけて、数人の団員達と
思考錯誤を重ねながら活動してまいりました。
97年12月に、プロの劇団との合同で市民シニシカル
に参加させていただけ、プロの厳しさと新たに
痛感しました。しかし、途中で、1回の舞台に向けて
無欲で、心と心と個人個人の全力を舞台に
ぶつけた様子は輝きに満ち、約1400名の観客と
関係者を感動させました。プロにはプロ、味。
アマチュアの素晴らしさだと思っております。

テ、テラ

優劣関係ない

だれにでも平等に可能性はある、という

「ヒエニんがわ」でも...

劇団葡萄座

それでもやりたいアマチュア演劇!

横須賀の常打ち小屋(元・青少年会館)の売館
に窮して、湘南しんきんホールくりはま(銀行)
を借りての赤字を見越した無料公演に賭切り参
した。全くアホな道楽としか言い様なしですわ、

10月17日・14時19時 18日・13時 湘南しんきんホールくりはま


平田慎司作 吉本敏克演出 「BOX」

プロジェクト 夢樹 代表 吉本敏克

アマチュア演劇

ケイコ! 生活のための本番が、この次になりそうなのアマチュア演劇は、
 団からの回答を寄せていただきました。

早いよ。気付けば入団してもう6年。
 その間、仕事その他で今のリズムが崩れてきて
 「もう続けられない…」と思わず涙がこぼれた
 こと、数回。でも失った心の水分を仲間たちに
 神ってくれる。やっぱり帰ってきたんだよね。こにに。
 そんな私が一番かわいいのはお前を絶対休めたい
 月末と公演が重なる、てしょうこと!!
 だから田辺さんお願い
 公演は月中にして♡
 劇団かに座



初舞台で観客の拍手に酔って以来、芝居の世界
 には足をフンでしまい、回を重ねる毎に落ち込み
 最近では打上げの酒も抑えられ、おいしくない。
 体力の衰えも日々感じる。稽古は苦い事の方が
 多い。でもやっぱり観客の拍手はこににらしい。
 しい芝居を、多くの拍手を。
 この時の為に頑張っているんだと思う。
 劇団蒼生樹 辻敏子

幸か不幸か我が劇団は少人数です。
 ですから、脚本選定から制作・スタッフ・
 キャストと一つの芝居を作り上げるのに
 全てに口をばさめます。それがアマチュア演劇の
 醍醐味でもあります。
 してかって 劇団員大募集
 ただ残念なのは上演権。作者がある
 劇団や劇場に売買してしまい、せっかく良い芝居
 ができない事です。
 劇団蒼い群

それでもやりたい! アマチュア演劇
 何といても仕事との両立は皆さんも大変ご苦労なさ
 ていると思うですが、我が劇団も忙しい働きがりが
 多いので、休時間には何とか折衝をつけて肉に合
 いたのはヤヤマだけおぼせ、シフト制や残業、仕事場
 の距離はいかんともしがたい。途中からの休取加は
 なんとなく居心地わるくて、針のムシロかも
 ひたすら集中するしかない。そして公演期間中の連休、
 現場にペコペコ頭をさげつつ、お客さんの拍手のゆき
 からほぐれないのが、と思う今日の境でした。 (団)
 劇団川崎演劇塾

なぜ??と言われてもうまい答えが
 無い。ただ、日常の生活の中では
 決して現実化出来ない夢を求めて。
 我々は舞台の上には立つのではないで
 しょうか。 劇団麦の会 Sato

飯を喰う為に
 仕事をする
 夢を食べる為に
 芝居をする。
 京浜協同劇団 城谷倉一

